



学校だより 西北歳時記

長崎市立西北小学校 校長 立本 祐輔
NO. 5 令和3年9月29日 発行



「〇〇の秋」!!



日中の日差しはまだまだ厳しく、少し体を動かしただけで汗ばむ毎日ですが、朝夕は涼しい風も吹き、少しずつ秋を感じるようになりました。

さて、2学期が始まり1ヵ月が過ぎようとしています。新型コロナウイルス感染予防のためのレベルが下がり、少しずつですが、日常を取り戻すことができそうです。子どもたちは、いろんな「〇〇の秋」を通して、成長してほしいと願っています。

おめでとう!! 合唱団 金賞受賞

西北小学校合唱団のみなさんが、九州合唱コンクール九州大会において、見事「金賞」を受賞しました。

長崎県では西北小を含め、金賞を受賞したのは2校のみでした。あわせて、夏に行われたNHK合唱コンクール長崎大会でも金賞を受賞しました。

どちらの大会も、今後「全国大会」「九州大会」が録音審査で行われます。夏休みに、音楽室で一度歌声を聞かせていただきました。心の底から感動する美しい響きでした。おめでとうございます!



受賞の報告に来てくれました。

認知症サポーター養成講座（4年生）

先週の金曜日に、4年生が「認知症サポーター養成講座」を受講しました。

岩屋包括支援センターの方を講師に迎え、「認知症って何だろう」から「認知症の人をささえよう」という話と体験活動をしていただきました。子どもたちは真剣なまなざしで話を聞いていました。今、自分に何ができるかを考えることのできる子どもに育ててほしいと思います。



食欲の秋



みなさんは「〇〇の秋」と聞いて、どんな秋を思い浮かべますか？「読書の秋」「スポーツの秋」「勉強の秋」・・・いろいろありますが、私は「食欲の秋」が、まず思いうかびました。

長崎には、有名な食べ物がたくさんあります。カステラやびわ、長崎和牛や新鮮な魚介類などがありますが、今回は「ちゃんぽん」を考案した人を紹介します。

その人は「^{ちん へいじゅん}陳平順」さんと言います。陳さんは、明治25年、今から120年以上前、中国から長崎に働きにやって来ました。陳さんは、中国料理店を開くために、着物を作るための反物（布）を長崎から島原まで売りに行き、お金をためていました。ところが、陳さんが長崎で働き出して2年目に、日本と中国の間で戦争が起きてしまいました。戦争がだんだん激しくなってくると、今まで一緒に仲良く長崎に住んでいた中国の人たちに、敵の国だということで、暴力をふるう人が出てきました。戦争前には長崎に600人の中国の人がいましたが、戦争が始まってから半分の300人が中国に帰ってしまいました。

陳さんは迷っていました。ちょうど、その頃です。長崎の県知事さんが「たとえ、日本と中国が戦争をしても、長崎に住んでいる人は同じ仲間ですから、あらいごとをしないようにしましょう。」と、呼び掛けました。陳さんは、長崎に残って働くことにしました。

そして、それから7年後、陳さんは、ついに長崎に中国料理店を開きました。また、陳さんは、中国から勉強のために長崎にやってきた学生のお世話もしました。その頃の学生さんたちは、お金がなくて、毎日の食事にも苦労していました。

そこで、陳さんは、学生のためにと安くてボリュームがあり、栄養いっぱいの料理を考えました。昔は、冷蔵庫や缶詰がなくて、材料をそろえるのにも苦労していました。陳さんは、長崎でとれるイカやカキ、小エビ、もやしやキャベツなど季節の材料を使うことにしました。こうしてできたのが、長崎の「ちゃんぽん」です。陳さんは、学生たちがおいしそうに食べるのを見て、とてもうれしくなりました。

陳さんの知り合いは、商標登録をして、ちゃんぽんを自分が作ったものだと登録すると、お金をもうけることができると教えてくれました。しかし、陳さんは、多くの人にちゃんぽんを食べてもらいたいと思い、登録をしませんでした。その後、安くておいしいちゃんぽんは、たちまち長崎の町に広まりました。こうして、長崎ちゃんぽんは名物になったのです。

<長崎っ子に贈る50の話より>